

Caravan ticket

キ ャ ラ バ ン

チ ケ ッ ト

written by yu-ki



何となく4137km

ヒッチハイクして

日本縦断

ルフィも絶賛

『出版王におれはなる!!』

ローグタウンを中心に話題騒然

caravan ticket / hitchhike story 『free&crime』

free & crime

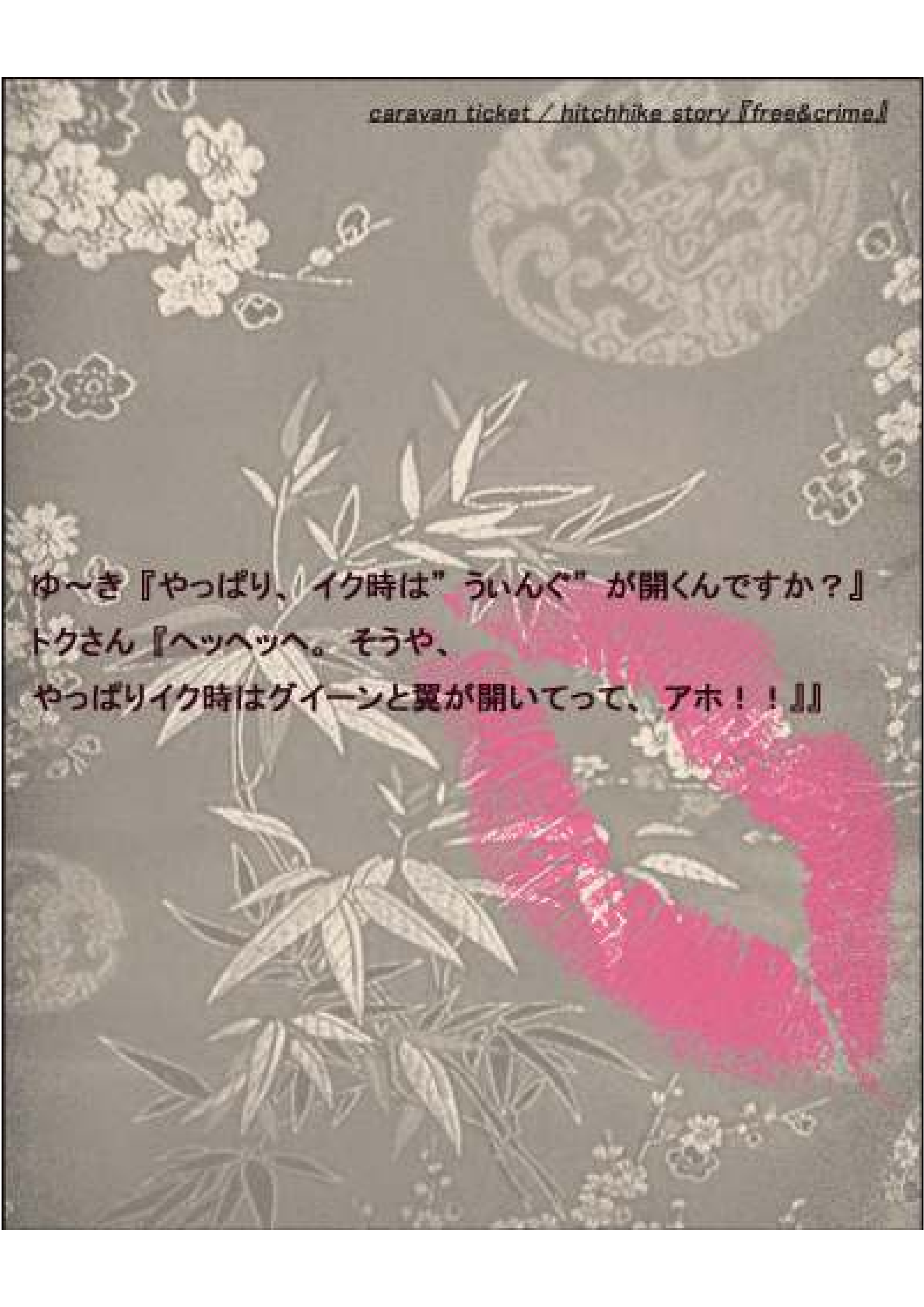
～7日目 飛ぶトラック「ウイングとくさん」～



ゆ～き



VI /



ゆ〜き『やっぱり、イク時は”ういんぐ”が開くんですか？』
トクさん『ヘッヘッヘ。そうや、
やっぱりイク時はグイーンと翼が開いてって、アホ！！』

7日目の朝

今日も頭上からサンサンと太陽の日差しが差し込んでくる。
多少、屋根のあるホテル（遊具）だったので、
ある程度は暑さをしのげたものの、
それでも夏の日差しを遮るコトは難しく、
遊具内はめちゃくちゃアツくなっていたんよね。
そんな俺達のホテルに**訪問者**が来た。

わんぱくそうな子供 A『あ、中に何かいるよ～??』
大器晩成型の子供 B『本当だ？ 何だろう。』

ゆ～き『やあ、パークホテルにいらっしやい。
2名様ですか??』

ビビる子供達『う、うわあ———っ、ママ———ッ』

タッタッタッタ。。。

子供達は驚いて、親の方向へ逃げていったんよね。

ゆ〜き『勝手に人の部屋に入るんじゃねえ。ガキが！！』

と、**ジャイアン理論**を唱えながら、

もわもわとアツさに耐え切れず、すぐに遊具の外に飛び出たわ。

外に出ると空からの日差しがもろに体に差し込できたよ。マジアチィ。

ソノも起きてきて、二人ともとりあえず、空を見上げる。

ソノ『おういえ！今日も変わらず天気イイじゃん☆』

ゆ〜き『あいやあ、ソノっち。おはようっしょ♪♪』

二人とも汗かいててさ。とりあえず、公園の水道で顔を洗ったよ☆

ジャバジャバ。

ふ——つ。

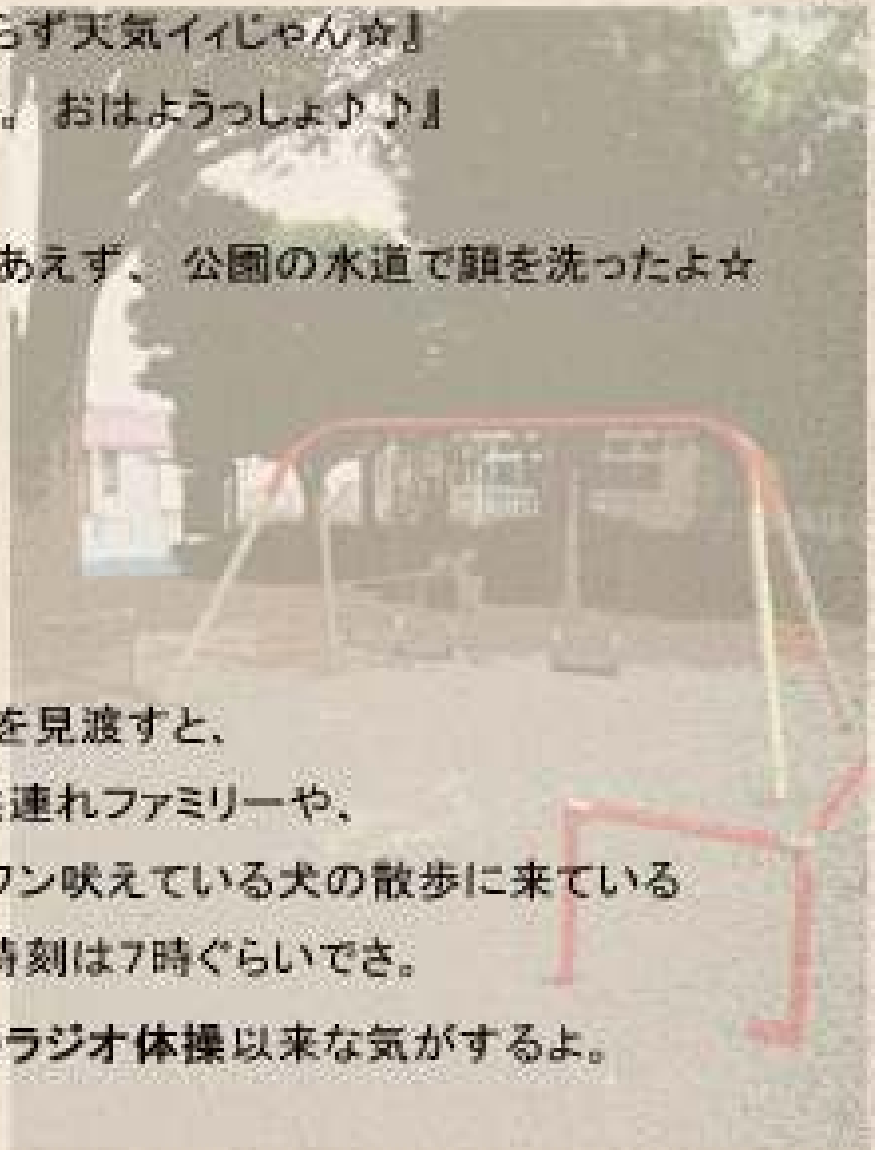
顔をタオルでふきながら辺りを見渡すと、

ちらほら遊びに来ている子供連れファミリーや、

その子供達に向かってワンワン吠えている犬の散歩に来ている

おじいちゃんとか。多分、時刻は7時ぐらいでさ。

朝の公園なんて、小学校のラジオ体操以来な気がするよ。



caravan ticket / hitchhike story 『free&crime』

皆、朝から活動してるんだ～と当たり前のコトを感じつつも、
法律で

『今年の夏だけ早朝の公園は**宿泊者のみ**利用可とする』

というルールを作って欲しいなど、無駄なコトを考えたりしたわ。(笑)

「夜の公園」と「朝の公園」は全然雰囲気違っていて。

夜は気づかなかったけど、けっこー広い公園でさ。

色んな人が利用していたよ。

昼間、すげー楽しい雰囲気な分、

夜の公園ってどこか落ち着いているというか、怖いというか。

そんなイメージあるよね☆

早速、新しい服に着替えて、脱いだ服を水道で洗い、

いちお木の枝に干しておく。

んで、その間に近くのコンビニへ朝飯を買出しに行くんよね。

そこで半額セールの缶詰一個 **(50 円)** 買って、

サクサクっと朝飯を済ます。

洗濯物はもちろんまだ完全には乾いてないけど、

とりあえずビニール袋入れて旅立ち準備終了！！

ゆ～き『いえい♪♪ じゃあ出発しますか。ソノさん』

ソノ『たしかあ～にい。今日も目いっぱい進みますか☆』

ゆ～き『今日は福岡ぐらいまでは行きたいねえ。
理想は山口県入りかなあ♪♪』

ソノ『そうだね～☆ どんぐらい進めるかなあー』

とか話ながら車通りの多い道を探しにいったさ。

相変わらず、**どういう通りが捕まえ易いのか**って、
よく分かってなかったから、

とりあえず、「**車幅が広くて、車通りが多い道**」をチョイス☆

ソノ『とりあえず、今日は「福岡」ですかね??』

ゆ～き『でえすよね～♪ それでいきましょう。』

道路脇に荷物を置いて、スケッチブックに『福岡』と書いてさ。
いざ道路傍に立つわ。ファーストタッチは緊張するよ。(笑)

ゆ～き『よ～し、やっちゃいましょう♪♪』

と気持ちを奮い立たせ、スケッチブックを両手で掲げたんよ。

バツツ っとな

caravan ticket / hitchhike story 『free&crime』

その瞬間から通ってる車の注目が一気に集まるんよね。

ヒッチハイク2日目スタートだあ！！

(頭ん中では「カーン」と開始のゴングが鳴っている(笑))

車通りはそこそこ。

最初は二人で、

途中から片方が休んだり、トイレいくときは交代しながら立ち続けるんよね。

ず〜〜っと立ちっぱなのも疲れるんだけど、なにより日差しがキツイわ。

ゆ〜き『どうぞ、このゆ〜きに**清き1票を〜**、乗せて下さ〜い♪♪』

ソノ『**可愛い、可愛い**僕ら二人をお願いしま〜す☆』

ってな感じで日差しに負けずにテンション保ちながら立ち続けてたらさ、

遂に1台の車がストップ！！

ソノ『おうえい！ 止まったじゃん。いきましょう☆』

ゆ〜き『いえい♪♪ りょーかい』

車に近寄る俺達。

パワーウィンドウが開いて、

ドライバーのめっちゃ**優しそうな表情**が見える。

ゆ～き『初めまして。止まって頂きありがとうございます♪♪』

気さくなおっちゃん A

『おが、ゆうこば、わかいやっち??』

ゆ～き&ゾノ『はい??????』

二日目ファーストヒッチは**方言めっちゃ強いおっちゃん's**。

知識の宝庫 wikipedia 様で調べてみると、
どうやら九州方言は大きく3つに分かれるらしい。
肥筑方言、豊日方言、薩隅方言の3つ。

①肥筑方言

福岡県西部（福岡地方・筑後地方）

佐賀県・長崎県・熊本県の方言みたいで、
テレビで見なくなった「ヒロシ」の「～とです」
ってのはこれに当てはまるっぽい。
あとは「ばい」や「たい」などのいかにも九州弁～って感じもこれみたい。

②豊日方言

福岡県東部（北九州地方・筑豊地方）

大分県・宮崎県（一部除く）の方言みたいで、
瀬戸内海を挟んだ中国方言や四国方言と共通する特徴があるそう。

③薩隅方言

鹿児島県（奄美諸島除く）と宮崎県諸県地方の方言みたい。

ちなみに、調べた所、おっちゃんの方言が当てはまりそうなのはなかった。
どこの方々だったんだろうなあ。

おっちゃんB『わかいやっち??』

ゆ～き『ボソボソ（ソノさん！ 全然コトバ分かりません。
ここ日本ですよね！？）』

ソノ『ゴニョゴニユ（たしかあ～にい。言わずもがな俺も分かりません。）』

ゆ～き『ボソボソ（どうしましょう。いい人っぽいから大丈夫かな！？）』

ソノ『ゴニョゴニユ（せっかくなので、乗せて頂きましょうか！？）』

ゆ～き『え、え～っと。。。どこまで向かいますでしょうか？？』

気さくなおっちゃん A 『ふぁhgjぶfdfgっち』

ゆ～き『あ、なるほどですね。OKOK、

じゃあそこまでお願いします！！（泣）』

と、どこに行くのかも分からなかったけど、とりあえず乗せて頂くコトに（笑）

ソノ『（ゴクリ。）おじゃましま～す☆』

覚悟を決めて車内に乗り込む。

おっちゃん A 『あsdgjhpうえう？？』

ゆ～き『（マジ分かんね。なんだろ）えっと、東京から来ました。』

おっちゃん A 『・・・』

シーーーーン

会話が終わってしまった。（泣）

caravan ticket / hitchhike story 『free&crime』

ソノ『あ、あのこの車は福岡の方向に進んでいるんですよね??』

おっちゃんB 『hjぶfsdぐひr』

ソノ『あ、そうですか。(泣)』

おっちゃんB 『・・・』

シーーーーン

また会話が終わってしまった。(泣)

こんなクイズ分かんねーよ、ちくしょーっ。

せめて、正解か不正解ぐらい教えてくれーーーーっ。

ただ、何となく雰囲気でこっちのコトバは

おっちゃん達は分かっているみたいなんだよね。

もちろん会話が成り立たないので、車内はひっそり静まり帰っていたわ。

俺達は少ない知能を使って、何とかこの

『難関地方方言 ～上級編～』

を解読しようとしていた。

異様に静まりかえる車内⇒



ソノ『ゴニョゴニユ（この暗号方言何とか解明しましょう。けけさん！！）』

ゆ～き『ボソボソ（確かに、状況を打破してやりましょう♪♪）』

ソノ『ゴニョゴニユ（俺思ったんだけど、さっきの”わかいやっち”って”分かるか??”って意味じゃね）』

ゆ～き『ボソボソ（あいやっ、なるほど。そうゆうコトか！？）』

ソノ『ゴニョゴニユ（部分的に標準語が混ざってるトキがあるから、それを見逃さずだね。）』

ゆ～き『ボソボソ（さすが、ソノさん。知的ね、アナタ♪）』

そっから、俺達の猛攻（笑）が始まったんよね。

とにかく話しかけて、積極的に理解しようとしたんだわ。

せっかく出会えたんだから分かり合いたい。

んで一つ一つコトバを教えてもらって、
だんだん話分かる様になってきたんよね。

閃いたっ！！

一番最初の

『おが、ゆうこば、わかいやっち??』

は

『俺の 言う言葉 分かるか??』

という意味みたいだったみたい。（笑）



だから最初の方の会話って、

おっちゃん A 『俺の言う言葉分かるか??』

ゆ～き 『はい、東京から来ました!!』

みたいな感じになってたっぼい。そりゃ会話止まるわ。(笑)

少しずつ俺達がコトバを理解しているのが分かってくると、

おっちゃん達も嬉しくなってきたのか、

方言クイズみたいな感じになってきてさ。

おっちゃん B 『じゃあ” **びっこんたん**” は分かるか??』

ゆ～き 『何だろう。子供とか。』

ソノ 『うーん、難しいですね。ラーメンとか。』

おっちゃん A 『” **びっこんたん**” はなあ、” **かえる**” って意味なんだ。』

ソノ 『えー、そうなんですか!? 初めて聞きました。』

おっちゃん B 『「**びっこんたんおととつち**」で

「**かえるがいるよ**」って意味になる。』

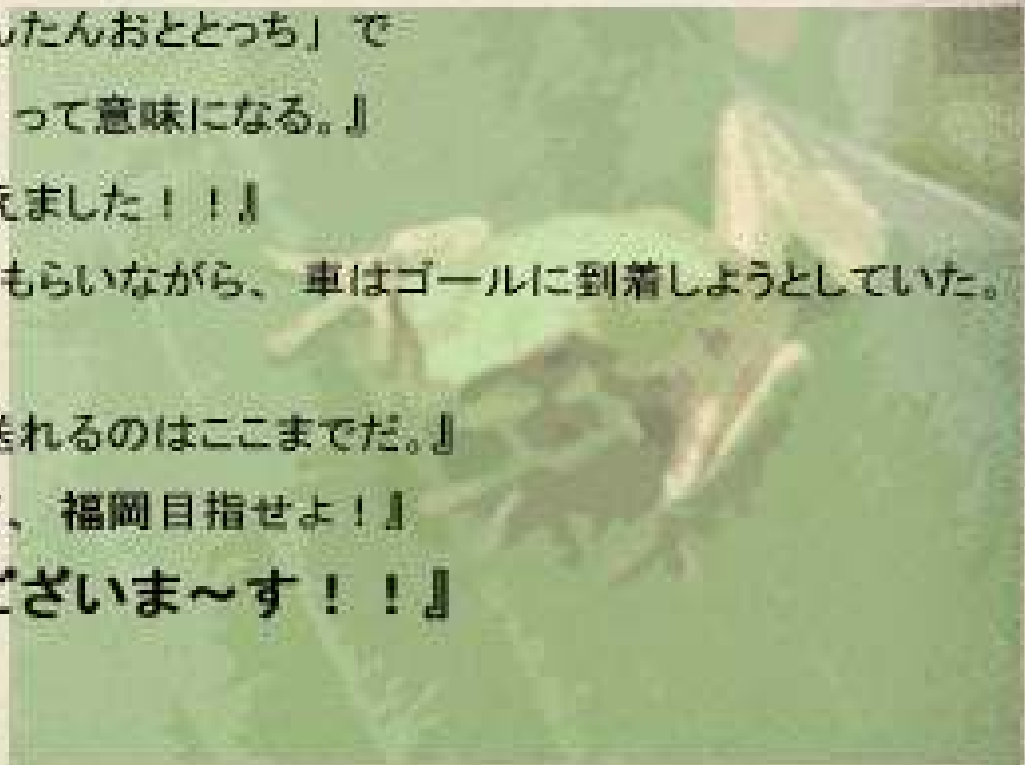
ゆ～き 『ほえーっ、覚えました!!』

そんなクイズ合戦をしてもらいながら、車はゴールに到着しようとしていた。

おっちゃん A 『俺達が送れるのはここまでだ。』

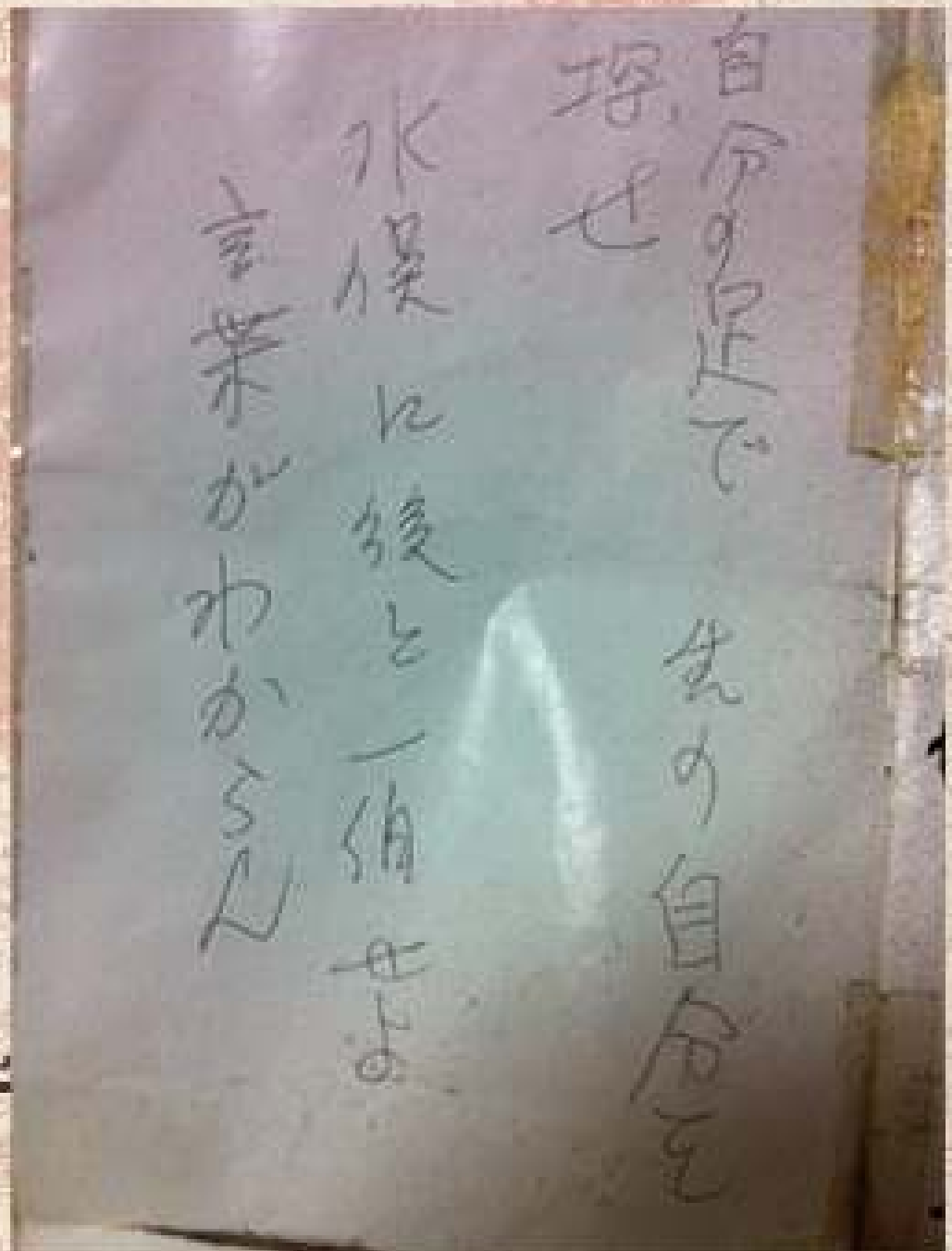
おっちゃん B 『頑張って、福岡目指せよ!』

二人 『ありがとうございます～す!!』



最後に DDM にメッセージをもらって、お別れ。

いやー日本の方言にも、色々あるんだなあと学べた時間だったよ。



『自分の足で先の自分を探せ。』

水俣に俺と一泊せよ 言葉がわからん』

caravan ticket / hitchhike story 『free&crime』

水俣ってのは熊本にある地名のコトね。

一泊したら、方言マスター出来るかな。それも面白そうだな！！（笑）

おっちゃんカーが見えなくなるまで手を振って、

次のヒッチをやろうと思ったトキ、

ふと降りてもらった道路の近くに

綺麗な川があるコトにソノが気づいたんよね。

ソノ『ケケさん、川に寄ってきませんか??』

ゆ～き『あ、それアリっしょ♪♪』

川の近くに降りていくと、ホント澄んだ水面が見えてきたんだよね。

ホンっと水が透明でビックリしたよ☆ 手ですくって飲んでみると、

ゆ～き『うみやあ～』

もうどこぞのアルプスの天然水なんて目じゃない程、うまく感じたよ。

喉の奥へ清流が流れ込み、天然100%ミネラルが体の隅々まで染み渡り、

まるでそれは**天使の涙の様**・・・（笑）

そして、アチィからもう川に入るコトにして、

もちろん、二人とも水着なんて無いから**全裸でダー——イブ**☆

誰か人がいたら猥褻物陳列罪 兼 銃刀法違反

(刃渡り 15cm 以上の日本刀 [名刀：珍々] に該当する為)

でタイホやったね (笑)

マジで気持ち良かったよー、大自然の中で泳げるって。

他に誰もいないし。

川のせせらぎとたまーに通る車の音しか聞こえない。

目の前には広大な自然がそびえている。

全ての条件が整い、俺達は川で**妖精**になった。

ゆ〜き『あいやあ。めっちゃ気持ち良かったわあ〜♪♪』

ソノ『たしかあ〜にい。自然っていいよねえ☆』



止まれ

あれっ、川に妖精が

caravan ticket / hitchhike story 『free&crime』

体を拭きながら、最高にいい匂いのする二人はヒッチの準備を始める。

ゆ~き『じゃあ、ヒッチの続きするっしょ♪』

ソノ『らちゃ☆』

比較的、車通りがありそうな道路まで歩いて、ヒッチ再開！！

ソノ『お願いしまっす~~☆』

前回の道路よりけっこ一車の数が少なくて、

1台1台に対して懇親丁寧にアピール。

1時間ぐらい、待っていると。。。

ゴゴゴゴゴゴッゴゴゴゴ

ぶしゅーっっつ

1台の**緑色のトラック**が目の前に止まった。

ワゴンカーよりはるかに大きく、むしろフツ一のバスよりも全然でかい。

ゆ~き&ソノ『マ、マジか！？』

二人とも立ちすくんでさ。

そりゃあ、フツーにトラックは見たコトあるけどさ。

実際に近くで見ると、めっちゃめっちゃデカイ。

運転席も高いトコにあって、**運転手の顔すらも見えない。**

すると、運転席の扉が開いて、颯爽とおっちゃんが降りてきた。

俺達の方見て一言。

渋いかっちよいいおっちゃん『お〜い、乗ってくかあ??』

俺達ちよいぼか一んとしてたけど

ゆ〜き&ゾノ『はいっ☆ お願いしますっ♪♪』

渋いかっちよいいおっちゃん『はいよお。じゃあ乗っちゃってえ!』

ってな感じで、また運転席に戻っていったんよね。

俺達も乗ろうとしたんだけど、**まず乗り方が分からない。**

なんか運転席まで**ハシゴ**があるんよね。

渋いかっちよいいおっちゃん『お〜、分からんかあ(笑)』

フツーに**ハシゴ登っておいでや』**

ゆ〜き『は、はいっ』

ハシゴを使って車に乗るのは初めて。

フラフラよろめきながらやっと車内に入れる。

caravan ticket / hitchhike story 『free&crime』

車内に入ってから、またビックリ。

家みたいな感じになってて、ちょい寝れるスペースやら、

何か冷蔵庫っぽいものまである。

ソノ『す、すごいですね。』

渋いかっちょいいおっちゃん『へっへっへっ。 マイホームへようこそ』

”へっへっへっ”と怪しげな笑い方を披露した

おっちゃんは**トクさん**というお名前らしい。

俺は”へ”で笑う人は漫画でしか見たコトが無かったが、

実物を初めて見た。(笑)

トクさん『助手席と後ろのベッドに乗ってくんな』

と言われるがまさに、助手席へ俺が、後ろへソノが乗り込む。

トクさん『まあー、ゆったりしといてやあ』

ゆ〜き『あ、ありがとうございます。』

トラックは動き出すが、それにしても**何もかもがスゴイ。**

ミラーがめっちゃめっちゃついていてさ、サイドミラーとか含めると

10個以上は鏡がついてる。

正直、トラックが大き過ぎて、全然後ろの方とか見えないよ。

ゆ～き『トラック初めて乗るんですけど、めちゃめちゃ大きいですね！？』

トクさん『ヘッヘッヘ、大きいだろう。10tも荷物載せられるでえ。』

ゆ～き『ええ———、10tですか！？ すごいですね。

(1tって何キロだっけ??)』

ソノ『後ろの方とか全く見えませんが大丈夫なものなんですか？』

トクさん『大丈夫じゃなえよ。俺も見えないんや。ヘッヘッヘ』

そこは、”ヘッヘッヘ” じゃねーだろって (笑) 思いながら。

ゆ～き『えー、事故ったりしないんですか？』

トクさん『そこは大丈夫！ 俺の運転に任せな』

ソノ『もし人轢いちやったりしたら??』

トクさん『まあー、万が一に人を轢いちやったら、

生きているかどうかまず確かめんなあ』

ゆ～き『なるほど。』

トクさん『生きてたら。。。』

ソノ『生きてたら?』

トクさん『もう一度轢く。』

ゆ～き&ソノ『もう一度轢くんかいツツツ』

思わず二人とも突っ込んだよ。(笑)

マジ、ブラックジョーク笑えねー！！

ともかくトクさんの**気さくな人柄**も相まって、

気づけば仲良くなっていたんよね。

めちゃ楽しい人でさあ、こうゆうおっちゃんになりたいなあって感じたよ。

ルックスは超シブ格好良くて、**矢沢永吉**をシュツとした感じ。(笑)

きっと若い頃はモテテさ、悪さもした感じの大人な男だったなあ。

ゾノ『結婚はされているんですか？』

トクさん『何かね、結婚かえ。しとるでえ。嫁さん**ベッピンさん**やぞ。

めちゃ足くさいけどな。ヘッヘッヘ。』

ゆ～き『**足のくささのくだけり**余計っす (笑)』

トクさん『このトラックはな。”**ういんぐ**”がついてるんや。』

ゆ～き『”ういんぐ”って翼ですか？』

トクさん『そうや。ついとるんやでえ。』

ゾノ『全く、意味が分かりませんが (笑)』

トクさん『ヘッヘッヘ、ピンチになったらな。

翼が開いて、このトラック飛べる様になるんや。』

ゆ～き『トクさん、ついにボケちゃったんですか?? (笑)』

トクさん『ちゃうでえ。ホンマに飛ぶんやでえ。』

ゾノ『じゃあ、飛んで下さいよ～。』

トクさん『今は、ダメや。ピンチじゃないからなあ。』

ゆ～き『え～っ、見たいですう～。』

トクさん『あーん、じゃあ、チョットだけやでえ。**チラッ**』

つとか何とか言いながら、結局”ういんぐ”を見るコトは無かったけど（笑）
超楽しい車内だったよ。

多分トクさんからしたら、息子ぐらいの年齢の男の子達。

それが一緒に話をして、大爆笑している。

年齢も地域も関係無く楽しめる時間。いいなあこうゆうの。

しかし結局、男が集まるとやはり盛り上がるのは**アンダージョーク**で、

トクさん『このトラック内でも女抱けるんやでえ。』

ソノ『マジっすか。それには狭くないですか？』

トクさん『いやいや、これぐらいがいいんや。

ちょうどシフトレバーも出てるしな。』

ゆ～き『シフトレバーいつ使うんすか？（笑）』

トクさん『もう、しょっちゅう使うで。ハイ&ローや！！』

ゆ～き『やっぱり、イク時は”ういんぐ”が開くんですか？』

トクさん『ヘッヘッヘ。

そうや、やっぱりイク時は**グイーン**と翼が開いてって、**アホ！！**』

的な感じの話ズツとしててさ。（笑） すごく楽しかったんなあ♪♪

caravan ticket / hitchhike story 『free&crime』

気づけば福岡近くまで乗せてもらっててさ。
マジ楽しかったから、あつという間だったよ。

トクさん『駅前にはトラック入りにくいから、この辺でええか??』

ソノ『はいっ、大丈夫です。ありがとうございます。』

ゆ～き『楽しかったです。お世話になりました。』

トクさん『今後はトラックには気をつけえ～な。二度轢かれるぞい』

ゆ～き&ソノ『だから轢いたらあきまへん!!』

トクさん『お、そうか? ヘツヘツへ、またな』

ドルドルウ

ブウ—————ウン

最後まで楽しかったトクさん。
もうあたりは夜になっちゃってて、
見えないかもしれなかったけど目一杯手を振って見送ったよ。

あとあと、調べてみたら、大きいトラックの種類は何種類かあるみたいで、
「平ボディ車」、「バンボディ車」、「ウイング車」、「冷蔵冷凍車」
と言ったものに分かれるらしいんだよね。

多分、トクさんはこの「ウイング車」を指してたんだと思うけど、
少なくとも空は飛ばないっつーの。(笑)



こうして、初トラック乗車にて最高のトラックであるトクさんと別れた。

トクさんがだいぶ距離を稼いでくれたおかげで、

無事に福岡まで戻ってくるコトが出来たんよね。

ゾノ『いやあ、戻ってこれたじゃん☆ 皆に感謝だね。』

ゆ～き『でえすよね～。今日もめっちゃいい人ばかりだったわ～。』

ゾノ『トクさん、すげ楽しい人だった。』

ゆ～き『ホント、ホント。マジ腹筋痛い（笑）』

な～んて、今日を振り返りながら、今日の寝床を探しに行く。

ちょうどホテル **joyful 様** が見えたのでここに宿泊するコトとなった。

しかしながら、このペースで行くと破産が見えてきたので、

これ以上無い節約を実施するコトとしたんよね。

何も知らない店員 A 『いらっしやいませ。こちらの席へどうぞ』

ゆ～き『あ、すみません、こっちの席でもいいですか??

（寝やすいので）』

何も知らない店員 A 『大丈夫ですよ～。どうぞ。』

そしてメニューを見る。

ゆ～き『ゾノさん！ ここは』

ゾノ『分かってる。』

そして店員が注文を取りに来たんよね。

何も知らない店員A『いらっしゃいませ。ご注文はお決まりでしょうか？』

ソノ”ミニサラダ”と”味噌汁”

以上だ！！』

明らかに動揺を隠せない店員A『か、かしこまりました。』

俺達の決死の覚悟が伝わったのか、

店員は青ざめながら厨房へ帰っていったよね。

まさかのサイドメニュー2つのみの注文。

もちろんこれで一晩中いるからタチが悪い。

何も知らない店員B『お待たせ致しました。』

ミニサラダと味噌汁です。(きっと後でメインが来るんだろうな)』

ゆ〜き『はい』

俺はかつてない程、サラダを一枚一枚丁寧に平らげた。

こうして一つのサラダと向き合うと、

農家の愛(セックスマシガンズのみかんの歌より)が伝わってくる。

普段、何も考えずに食事をしたいたけど、

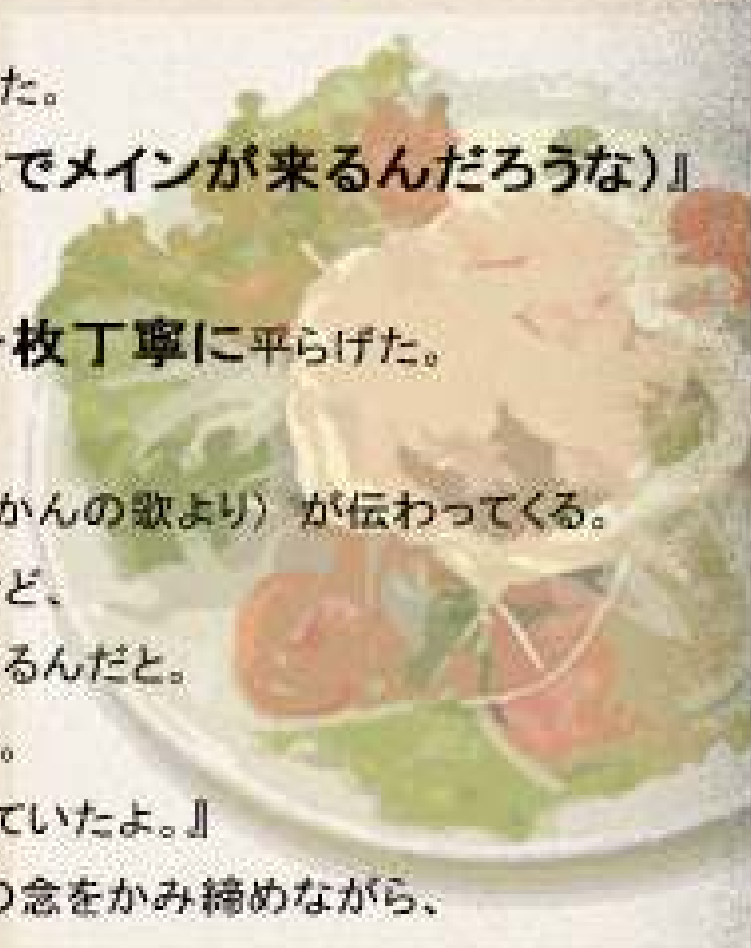
こんなにもうまくて幸せな気持ちになれるんだと。

ゆ〜き『俺は何も気づけていなかった。』

食べ物に対する感謝の気持ち。忘れていたよ。』

サラダを食べ終わった後、俺は感謝の念をかみ締めながら、

そしてハンバーグが食べたいと思った。



ひとしきり、食事を終えた後、

すっかり就寝モードに突入していたんよね。

joyful はサイゼの様に起こすコトはしないからさ。

(最近はどうか知らないけど。)

俺達はそんなキーメッセージを知っていた為、ゆっくり寝るコトが出来たよ。

ゆ～き『(joyful 万歳！ joyful 万歳！！)』



こうして7日目の夜が過ぎていく。

caravan ticket / hitchhike story [free&crime]

this story continues

